

## 第15組願蓮寺候補衆徒 石神真（いしがみ まこと）

昨年、11月の日差しが暖かいある日、私は育てている観葉植物をベランダに出して日光浴をさせました。暖かいとはいえ、冬の寒さが原因だったのか？数日後、その植物は葉っぱが変色し、日に日に枯れ落ちてきて、幹も先端から柔らかくなり腐り始めました。

その状態を見て、私は「もうだめだ、死んでいるだろう」という諦めの思いと、「無駄だろう」という面倒くさい思いもあって、それ以降、見ることも手をつけることもなく何もしていませんでした。

しかし、妻はそんな状態でも、「駄目とか、死んでいるとかってまだわからないじゃない」と言いながら水をやり、出来る限りの面倒を見ていました。

それから半年ほど経ったある朝、ベランダで洗濯物を干していた妻が「ちょっと来て～」と大きな声で私を呼びました。何の事かと駆けつけてみると、妻は、枯れ果てたと思っていた植物の鉢を指さし、「芽が出ているよ」と嬉しそうに言いました。

私は、驚きと、「そんなことあるか」と半信半疑でその鉢を覗き込むと、腐っている幹の隣から確かに芽が生えていました。いのちのたくましさ、不思議さに感動し、妻の姿勢・努力に感心する一方で、自分の至らなさに苛立ち、素直に喜べない感情が入り交じるなか、「私たちの存在は関係性の上にすべてが成り立って共に生きている」という言葉が頭に浮かんできました。

その言葉を通し、よくよく考えれば、私は土の上から出ている見栄えの良い葉っぱや幹しか見ておらず、土の中にあり全体を支えている根っこが「まだ生きているかもしれない」と頭に思い描くことなく、自分の都合の良い、思い込みの中で植物を見ていました。

また、その植物の存在は土、水、太陽の光、空気などや他にも言い表せないほどの多くの縁、条件によって生きています。それは、私の判断や思いなどを超えた大きなはたらきによるものです。

これらのことを私たちの日々の生活に置き換えてみてはいかががでしょう。人間関係においても、自分の思い込みを重要視するのではなく、自分も他人も環境や社会も縁によって成り立っているという事実を改めて確認することが必要なのではないのでしょうか。